

日野原重明記念「新老人の会」石川



会 報 (52号)

発行日 2022年7月1日(金)

2022年度定期総会 & 昼食懇話会の開催

高 木 正 二

2022年度定期総会&昼食懇話会が5月28日(土)、会員22名の参加により金沢ニューグランドホテル5階「銀扇」で開催されました。最近2年間は新型コロナウイルスの影響で定期総会の開催を断念しており、本年も再び感染拡大の傾向を示し開催が危ぶまれましたが、何とか開催することができました。事務局一同ほっとしております。

定期総会は山内事務局長の司会で開会し、冒頭の挨拶で鈴木雅夫世話人代表がロシアのウクライナ侵攻に触れ、早く平和になってほしいとの願いを披露されました。又、新型コロナの感染について、大多数の人が3回のワクチン接種を終えており、感染しても症状が軽くなる。今後は次第に落ち着いていくのではないかとの予想を示し、健康長寿が大事、そのためには、「自立」すること、すなわち歩いて健康を保つことが重要であると話されました。



次に、新入会員の紹介があり、本年4月以降に入会した4名(うち1名は欠席)の方が紹介され挨拶をされました。

続いて議事に入り、議長に選出された福岡恒忠さんの進行で以下の6つの議案

- 第1号議案 2021年度(令和3年度)事業報告
- 第2号議案 2021年度(令和3年度)会計決算報告
- 第3号議案 2022年度(令和4年度)事業計画(案)
- 第4号議案 2022年度(令和4年度)会計予算(案)
- 第5号議案 規約の一部変更について
- 第6号議案 任期満了に伴う役員の選任について

が審議され、満場の拍手で承認されました。



2022年度(令和4年度)事業計画(案)では、第2回の会員の集いでプロのマジシャンによる「マジックで笑って免疫力を上げよう!」の講演を計画することや、会報について印刷業者への委託を止め事務局で印刷することにより経費を削減する方針が承認されました。

規約の一部変更では、「新老人の会」の活動の拠り所でもある日野原先生が提唱された「新老人運動」の定義『生き甲斐の3原則』、『1つの使命』、『5項目の行動目標』を新たに規約に明記すること、夫婦会員の総会における議決権を2人で1個とすることなどの変更が承認されました。

任期満了に伴う役員の選任では、世話人に鈴木雅夫世話人代表以下9人が選任され、監事に2人が選任されました。

総会終了後昼食懇話会が開かれ、参加者は食事を摂りながら和やかに会話を楽しんでいました。



引き続いて、日野原先生が101歳の時、先生の故郷山口県で開催された「第6回ジャンボリー山口大会」で講演されたビデオが放映され、元気潑刺とした先生のお姿や、ユーモアに富んだお話、心のこもった先生の教えに参加者は時に笑い、時に真剣な眼差しで画面に見入っていました。



先生が亡くなられて間もなく5年になりますが、先生の存在の大きさを改めて感じています。

最後に、鈴木代表のハーモニカ伴奏に合わせて全員で「ふるさと」を歌って閉会となりました。日野原先生が常々おっしゃっていた世界平和の実現とコロナ禍が一日も早く終息することを願っています。



2022年度新入会員

中川孝子氏 4月10日入会
 久保恵美子氏 5月1日入会
 吉川與志子氏 5月1日入会
 横山欽一氏 5月28日入会
 以上 4名

2022年度役員（任期は2024年度定期総会まで）

【世話人】

鈴木雅夫(世話人代表)、山内ミハル、植松 茂、大島恒治、数澤輝夫、新川光子、高木正二、福岡恒忠、前川昭治(新任) 以上9名

【監事】

長丸良子(新任)、徳成信子 以上2名

2022年度第2回会員の集い&昼食懇話会開催のお知らせ

第2回会員の集い&昼食懇話会を次のとおり開催いたします。プロマジシャンによる愉快で楽しいマジックショーです。皆様ぜひご参加ください。

日時：2022年8月27日(土) 11:00~13:30

場所：金沢ニューグランドホテル

講師：マジシャンルパン（高田隆二）氏

演題：マジックで笑って免疫力を上げよう！

会費：3,500円（昼食代を含む）

同封の「返信ハガキ」に出欠を記入のうえ、8月15日までに投函をお願いいたします。



老いを生きる私の工夫

辰 巳 明 子

「老い」というのは、人生のどのあたりからなのか、それは、人それぞれだと思いますが、年齢的には60才以後、人生の斜陽にいる頃でしょうか。

私が老いを感じたのは、85才頃からの記憶があります。大学の階段教室で机間巡視していた時のことです。昇りは軽やかだけれど降りてきた時にかかとが床に触れた瞬間背すじに衝撃を覚え、若さのある時とちがう思いでした。それで、非常勤の講師をやめさせてもらいました。それが老いを感じた時です。口で言う事や頭の働きの中ではあれこれとできるのですが、体が思うようになりません。そのうち、口も頭の中もおぼつかなくなるのです。

今、94才で、卒寿を祝っていただいてから4年を過ごしています。生命を載ている限り何とか生活しなければなりません。

衣類の繕い、身の片付け、食材を選び買い整え調理をすること、また、町会のおつきあい等（町内会は、最近、85才以上の家族や個人には仕事を代わってやって下さいます。例えばゴミ捨て、道路の清掃や除雪、みぞ掃除等）をすることが必要です。

これまで、教師、画家、主婦の三足の草鞋、今流で言えば三刀流をなんとか過ごしてこられたのは、健康と環境にめぐまれていたからと思っています。

とにかく、人は体を動かさなければならないようにできています。日頃、健康であれば適宜に動いているのです。

そのためには少々の努力が必要です。軽い運動は仕事をしながらでもできますが、つま先立ち歩きや腕を振る、体を前に曲げる、体を後ろにそらすなど、2～3分のトレーニングは欠か

せません。こうして何とか健康に生きようと努めています。

食べる、歩く、休む、寝る、考える、書く、描く、話す等、せつせと機会をみつけて行うようにしています。

このように生きる工夫をする中で、もうひとつ大事なことは、常に感謝の気持ちを抱き「ありがとう」の言葉を忘れずに自らのできることは進んで体を動かすようにしていく事ではないでしょうか。

なお、元気で健康ならば、進んでお役に立たせてもらうことも大事です。

絵手紙教室や絵の会の人達との研究会、ご近所のお仕事等があります。



しかし、無理をしてはいけけないので、退く所は退き、老いを生きる者として人の迷惑にならないよう行動することが、せめてもの心遣いだろうと考えています。

「Facebookとハーモニカと私」

高 木 要 子

私の習い事の一つにハーモニカがあります。3年前に結成した5人のハーモニカアンサンブル「ルビアスマイル」の一員として演奏活動をしています。その中で私は低音のバスハーモニカを担当しています。コードハーモニカも加わるとオーケストラのような重厚な響きになります。北陸では珍しいスタイルです。



メンバーのうち4人は小松市在住、私だけ金沢から先生宅へ通って練習しています。検定資格を取るほど夢中になっています。

きっかけは、フェイスブックの友達が企画するハーモニカコンサートに行き、先生のテクニックや楽器の奥深さに魅了されたのです。

フェイスブックは情報をいち早くキャッチできることと双方向のやりとりが可能です。

7年前日野原先生が「双方向の通信ができるフェイスブックを老人も始めてみませんか」と呼びかけて下さったことで、私はフェイスブックを知り、多くの仲間ができました。

東京本部がフェイスブックで発信する日野原先生の「今日の言葉」に、私は「いいね」を押します。

フェイスブックから得る情報でアメリカのジョン万次郎記念館（日野原先生が設立）も訪れ、フェスティバルに参加できたことも良い思い出です。

日野原先生は何歳になっても新しいことにチャレンジすること、行動を起こすことが大切だとおっしゃいました。ガラ携からスマホに買い換えてフェイスブックに挑戦したことにより、ハーモニカの世界で若い人たちと共に活動することができ、学ぶことが多く、充実感のある日々を過ごしています。

サークル訪問 「絵手紙」

「新老人の会」石川のサークルを会報の編集委員が訪問して、サークルの活動の様子や会員の感想を取材し、サークルの魅力をお伝えするサークル訪問のコーナーです。今回は、5月26日に「絵手紙」を訪問しました。

本年4月に、長年講師を務めてこられた辰巳明子先生よりバトンを引き継ぎ、講師に就任された久保恵美子先生が出迎えて下さいました。

久保先生は二紀会準会員、女流画家協会会員として活躍しておられる洋画家で、以前は北陸大学の講師としてスケッチを指導し、現在は、高砂大学大学院の絵手紙講師を務めておられます。



先生は、「上手に描けないわと思っても、その人なりの気持ちが入っていれば、受け取る人に伝わって喜ばれます。自分なりの味のある絵手紙を楽しく描けるように指導できればと思っています。世界に一枚の絵手紙です。送る人も受け取る人も心温まる気がします」と指導に際しての思いを語って下さいました。



当日は、会員8人がアイリスとカラーを題材に熱心に絵筆をふるっていました。



長年続けているメンバーは、「数年前より確実に絵がうまくなっていると感じています。先生の一筆が入ると絵ががらっと変わります」と語り、始めて間もないメンバーも「難しいけれど楽しいです」と笑顔で感想を話してくれました。

「絵手紙」は、
毎月第4木曜日 13:30～15:30
石川県社会福祉会館3階
で行っています。興味のある方は
世話係 徳成信子 090-1393-4434
までご連絡下さい。

《心に残る日野原先生の言葉》

「死は怖い」 … 「今は誰が手を取り連れて行ってくれるか楽しみだ」

高木正二

この言葉は、日野原先生が亡くなられて約1年後に聖路加国際大学で開催された「日野原重明記念会」で、日野原先生の次男の妻として晩年の先生と同居し、お世話をした日野原眞紀さんが講演の中で話されたものです。

先生が2017年3月に病院から自宅に戻られた時に「死は怖い」とインタビューで答えられていたが、自宅で過ごすうちに「あのときお花畑を見たが、僕は行かなかった。今は誰が手を取り連れて行ってくれるか楽しみだ」と変化した先生の最期の様子を話し、死を受け入れることも「keep on going」と捉え、最後まで自分らしく生きた人だったと先生を偲ばれたということです。

私はこの話を聞いたとき、本当に驚きました。なぜなら、敬虔なクリスチャンであり、常に新しいことに挑戦する前向き姿勢を貫いてこられた日野原先生が、「死は怖い」とインタビューに答えるなどあり得ないと考えたからです。キリスト教の教義については詳しくないのですが、死は神の御



許の天国に召されることで決して怖いイメージではないと思っていましたから。

中学生の時、原因不明で身体が衰弱した経験がある私は、それ以来、漠然ながら死に対する恐怖を感じていました。先生のこの言葉をお聞きして、先生でも死は怖いと感じるのだなと自らと比べてほっとした思いと、短期間に自らの死を受け入れ、「誰か手を取り連れて行ってくれるか楽しみだ」と従容として亡くなられたのは本当に凄いとこの思いが同時に浮かびました。

死は生物である以上避けることはできませんが、死に臨んだ時、日野原先生のように死を受け入れ、従容として逝きたいと思っています。その時までには、人生を楽しみ人の役に立つよう心がけ、生きていきたいと考えています。keep on going!

第14回会員余技作品展開催のお知らせ

第14回会員余技作品展を次のとおり開催いたします。写真、絵手紙、俳句に限らず手作りの作品であればジャンルは問いません。皆さんの出展をお待ちしています。

期 間：2022年9月6日（火）13：00～
9月11日（日）15：00

場 所：石川国際交流サロン

主 催：日野原重明記念「新老人の会」石川

川柳

(順不同)

大島恒治

芝目読む目の涼しげなテロゴルファー
軽々と優勝杯を抱く力士

新川光子

気温差についていけない年となり
どっこいしょ口からついと出て笑う

高木要子

マスク取り素顔にびっくり赤子泣く
クーポン券探してみれば期限切れ
町内の新こみネット盗まれる

隣家からペットも怯える夫婦喧嘩

高木正二

侵略が招く食糧資源危機

ウィズコロナ感染増えとも知らんぷり



日々の俳句 花明り
(順序不問)

鈴木雅夫

幼き子等田植の習い泥半身

緑蔭にレンガ四高の色映えて

福岡恒忠

入梅を控えて空の青さかな

鉢植えの苺初生り小さき赤

福岡晴美

夏椿楚々と咲きつつ密と散り

紫陽花の寄り添う花にはほ寄せて

大島恒治

花つけてわれ萍はらはここにあり

足軽の屋敷と記す鉄線花

新川光子

店先に並ぶ青梅夏に入る

箸おどる豆飯の豆匂い濃し

北山八重子

天領地浜昼顔は風の中

老木の足元に咲く濃紫陽花

ふるさとの山紫に雨となる



はめ字作品

多数のご応募有難うございます。
はめ字の極意は、「粋」や「洒落」という遊び心が肝心です(元祖・梅法師様)との事です。この様な調子で面白い作品をお待ちしています。

次回作品募集

		ふ	
		る	
つ	た	いる	ふ
		た	
		つ	

う	ひ	や	と	こ
き	と	つ	待	ん
ね	り	ぱ	つ	や
ど	ね	り	て	こ
り	の	ね	も	そ

大島 恒治

卷	親	や	や	彼
で	譲	つ	ぼ	は
ね	り	ぱ	つ	や
て	の	り	ち	ぼ
る	寝	ね	い	天

飯田 世三

締め切りは8月20日 鈴木雅夫まで

積	ひ	や	軍	プ
重	と	つ	ば	口
ね	り	ぱ	つ	や
て	練	り	て	球
る	習	ね	き	一

高木 正二

恋	何	や	の	千
歌	よ	つ	男	両
ね	り	ぱ	つ	や
つ	美	り	ぷ	く
唱	声	ね	り	者

新川 光子

ま	わ	や	お	憎
た	た	つ	も	い
ね	り	ぱ	つ	や
と	ど	り	た	つ
さ	り	ね	が	と

大島 恒治

て	ね	や	の	町
い	ば	つ	じ	会
ね	り	ぱ	つ	や
い	強	り	行	く
だ	く	ね	力	員

高木 要子

り	草	や	く	畑
に	取	つ	育	の
ね	り	ぱ	つ	や
つ	水	り	て	菜
心	遣	ね	る	良

高木 正二

り	治	や	謡	心
完	療	っ	歌	い
ね	り	ぱ	っ	や
が	ハ	り	て	す
う	ビ	ね	る	童

新川 光子

に	頑	や	い	彼
超	張	っ	け	女
ね	り	ぱ	っ	や
ば	求	り	婚	さ
る	婚	ね	を	し

飯田 世三

性	頑	や	い	真
格	張	っ	じ	に
ね	り	ぱ	っ	や
貴	通	り	ぱ	ば
方	す	ね	り	い

新川 光子

程	重	や	花	庭
高	な	つ	ぼ	の
ね	り	ぱ	っ	や
だ	咲	り	た	重
と	く	ね	り	桜

飯田 世三

通	ベ	や	に	突
安	ん	っ	び	然
ね	り	ぱ	っ	や
住	な	り	く	移
宅	交	ね	り	り

飯田 世三

編集後記

コロナ禍のため過去2回、総会を対面で開催することができず、書面表決によって皆様のご意思を伺ってききましたが、今年度は22名の方の参加を得て、総会と昼食懇話会を開催することができました。

ほとんどの集会を中止せざるを得ない中で、会報だけは欠かすことなく発行できたことは、編集者の喜びであり、皆様に感謝です。感染予防の為、不自由な生活を強いられている中、お寄せくださった原稿は、私たちの絆を更に強くしてくれます。有難うございました。(山内ミハル 記)

次号の発行は2022年10月1日、原稿締切日は2022年8月20日です。字数は原則800字程度でお願いします。

送付先：山内ミハル

〒921-8163 金沢市横川2-268-2

E-mail huukowanwan@pf6.so-net.ne.jp

編集責任者：世話人代表 鈴木雅夫

編集委員：山内ミハル、新川光子、福岡恒忠、高木正二

印刷：「新老人の会」石川 事務局